

2017 年度野球規則改正・規則適用上の解釈と要点解説

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

- (1) 原文通り
- (2) 原文通り
- (3) 投手のグラブの色について「アマチュア野球では、所属する連盟、協会の規定に従う。」としていた【注】が原文通り改正された。
- (4) 原文通り
- (5) バッターボックスルールの(A)(B)項に、それぞれ原文通りの追加があった。
- (6) 野手が飛球を捕えた後、ボールデッドの個所に倒れ込まなくても踏み込めば、ボールデッドとなることが追加された。
- (7) 【原注】の前段である「走者が塁にいない場合、セットポジションをとった投手は、必ずしも完全静止をする必要はない。」の適用外を「我が国では」から「アマチュア野球では」に限定した。
- (8) 原文通り
- (9) 原文通り
- (10) 正規の捕球の後、野手がダッグアウトまたはボールデッドの個所に倒れ込まない限り、ボールインプレイであるとしていたものを、踏み込めばボールデッドとなることに改正された。
- (11) 三塁・本塁間でランダウンプレイが発生した際、後位の走者が三塁ベースについているときに、前位の走者がレフト方向に塁を踏み越してしまった場合、後位の走者は前位の走者を追い越したとみなされ、アウトが宣告されることもあり得るとされた。これは攻撃側のミスであり、前位の走者が三塁に戻る前にタグされればダブルプレイとなっても仕方がない。ただし、前位の走者が走塁放棄でアウトを宣告された場合は別である。
- (12) 原文通り
- (13) 野手が飛球を捕えた後、ボールデッドの個所に倒れ込まなくても踏み込めばボールデッドとなることに改正され、塁上の走者は「1個の進塁が許される。」を追加した。また、後段の「捕球後ベンチに踏み込んでも、倒れ込まなかったときは、ボールインプレイであるから、各走者はアウトを賭して進塁することができる。」を削除した。
- (14) 原文通り
- (15) 6.01 インターフェア、オブストラクションおよび本塁での接触プレイの項に「(j)併殺を試みる塁へのスライディング」を追加し、正しいスライディングについて記載された。また、アマチュアではアマチュア野球内規の危険防止ルールを適用することから、「【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。」を追加した。
- (16) 6.03(a)の項に、新たに(4)の文言を追加した。
- (17) タッグの定義にボールを保持したグラブでのタッグに関し、ひもだけの場合は含まないと明記した。
- (18) タッチの定義の文言の一部である「着衣」を「着用しているユニフォーム」と改めた。